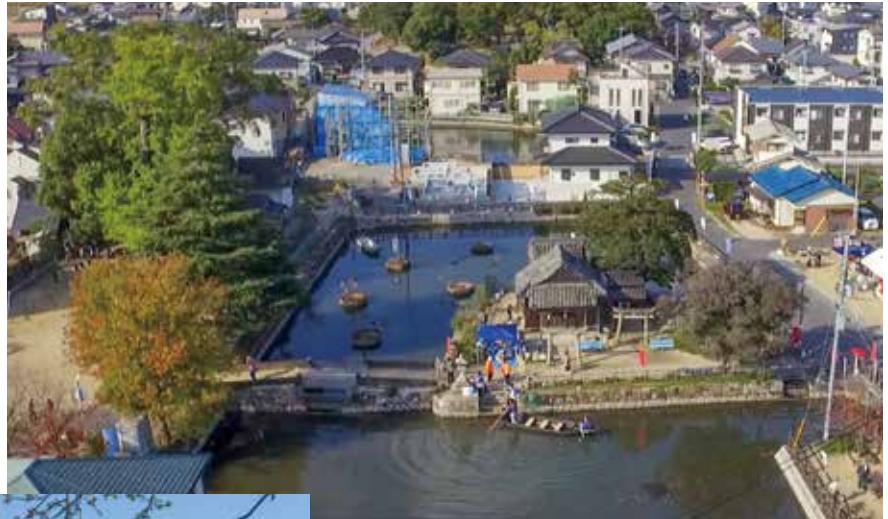
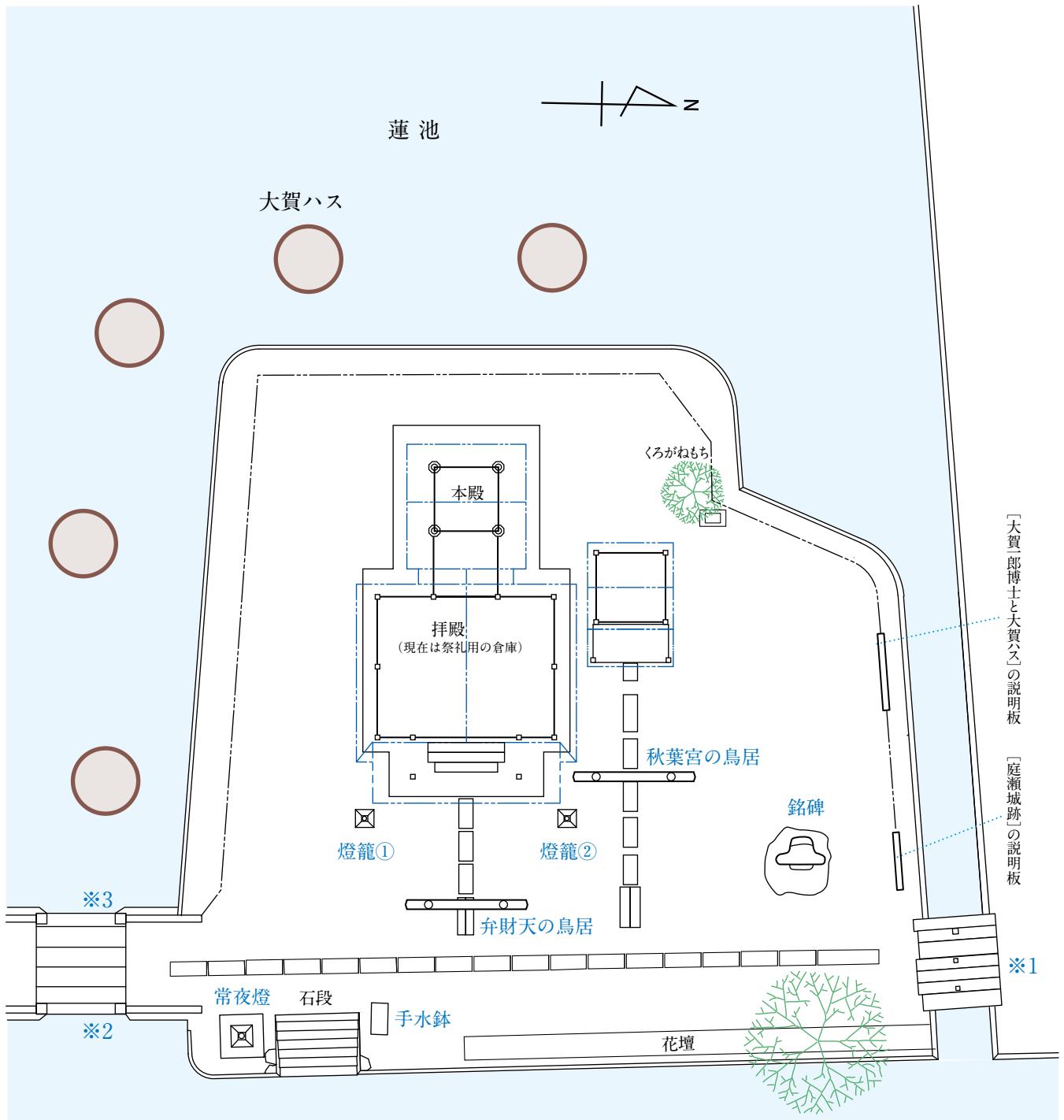


13 弁財天

弁財天、八幡宮、稻荷宮をお祀りしている社(庭瀬827)





※1~3の石材はかつての使用材の再利用品で溝やはぞ穴の跡がある。

これ等の碑文は三代藩主板倉勝興の在位中に建てられている。

祭 神: 南側は弁財天(学芸の神)、八幡宮(武勇の神)、稻荷神(農業の神)を合祀。

北側の祠は秋葉宮(防火の神)でその扁額の裏に天保7年(1836)の銘があった。

この島に弁財天が祀られており、「弁天島」と呼ばれる。

創 建: 宽文年間(1661~1672)の庭瀬城絵図に記載されており、板倉以前に創建である。

燈籠は享保20年奉納が最も古く、三代藩主板倉勝興になってからである。

束や柱は手の込んだ造り(八角形)で造作も江戸期の様式のものが残っている。

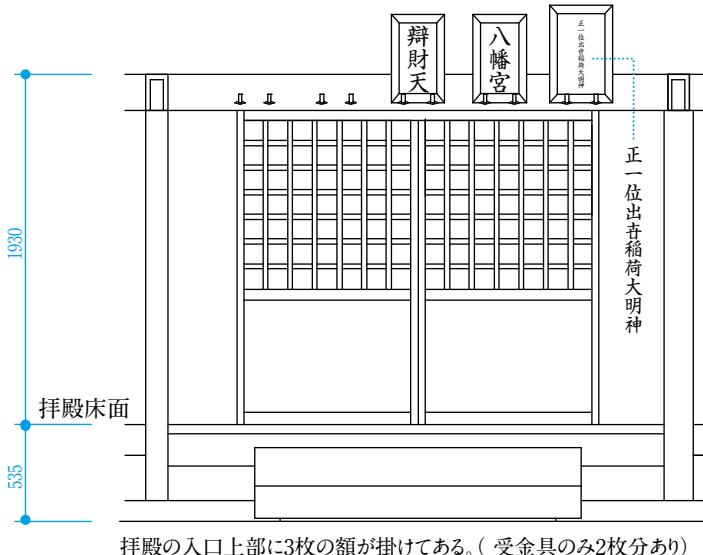
拝殿の入り口上部には3枚の額が掛けてある。

秋葉宮: 扁額には「天保七丙申歳五月」の銘があった。【天保7年(1836)、きびのさと】

社殿は桧皮葺で鞘堂が懸かっている。

軒瓦の紋は戸川(梅鉢)、板倉(左三つ巴)共にある。

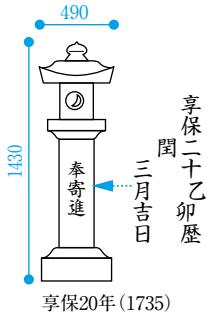
拝殿の入り口にある扁額



拝殿の中の扁額



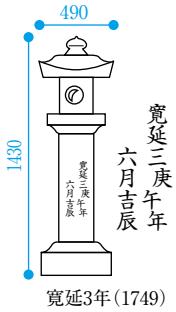
弁財天の石燈籠①



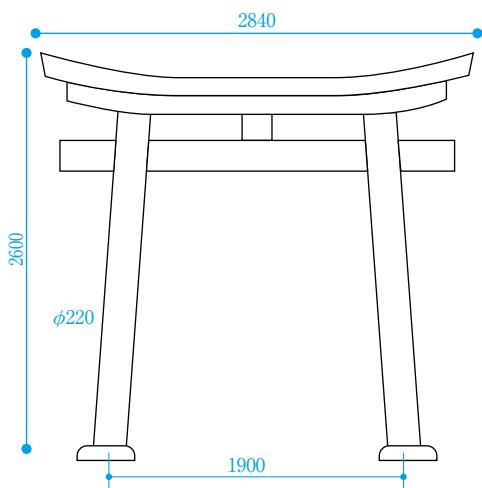
弁財天の鳥居



弁財天の石燈籠②



秋葉宮の鳥居 ※弁財天と秋葉宮の鳥居は同じ大きさ





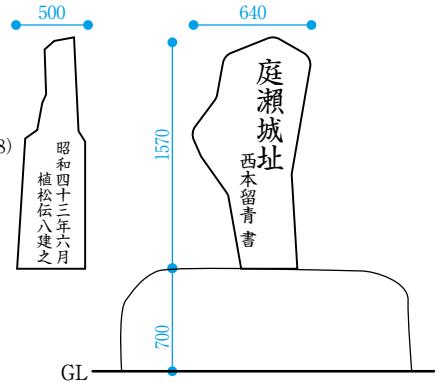
銘碑

西本留青について

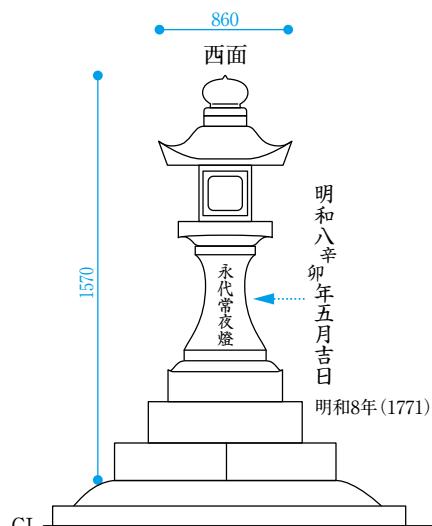
本名西本清人。安芸国広島から移住し、畠表商人で、光明寺を勧請した人。留青は雅号で、取り扱いの畠表が「青いまで留まって」という願望の現れ。



手水鉢



石段脇の常夜灯



廃藩後、庭瀬藩の旧家臣たちが主君の恩顧をしのんで寄進したもの。
(きびのさとNo.83より)

庭瀬城址

岡山市庭瀬

室町時代の末ごろ(約400年前)備中松山の三村元親は備前を固めとしてこの地に築城した。付近の地名から芝場城とも呼ばれた。一帯は泥沼地でひじょうな難工事であった。その後宇喜多の重臣戸川肥後守達安が入り(1602)古城を拡げ城下町をととのえた。

元禄12年(1699)板倉氏の居城となり明治を迎えた。自然石の石垣をめぐらしく壇もよく残り、沼城の典型を示している。

寛政5年(1793)板倉勝善は城内に清山神社を建て板倉氏中興の祖重昌、重矩父子を祭り歴代の遺品を収蔵した。(遺品は現在、吉備公民館に収蔵)

庭瀬城址の説明板

この説明板は現在の「撫川城」を本丸、この「庭瀬城」を二の丸とする本来の「庭瀬城」の説明板である。

芝場城は足守川右岸にあった城の名称。

(この城は永禄10年、宇喜多直家の重臣戸川平右衛門秀安により落城)